

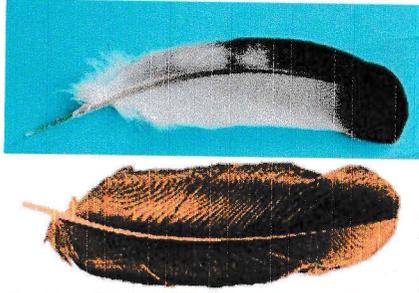
ユリノキの町から 風の便り 67

2024 (令和6) /5/1.
八千代・ゆりのき台 辻 秀幸

鳥とりどり

船橋に移り住んだ頃には、ツバメ、スズメ、オナガ、カラス、コムクドリ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバトなどを見かけた。その後は商店集合ビルに住みつくとハトだけになった。船橋魚港に行けば海鳥が観察できる。

Peace & SAMURAI BLUE



上:ハト(ドバト)(鳥綱・ハト目・ハト科)
2021/10/8. 船橋・浜町2
「ピビット南船橋」北側入口通路
下:ハシブトガラス
(鳥綱・スズメ目・カラス科)
2019/6/9. 船橋・浜町1
マンション入り口

上写真の白い方はハト。ノアにオリーブの葉を見せたときから希望、平和のシンボルとなり、北アメリカ先住民の友好のしるしつながらタバコのマークに採用された。オリーブならいいか黴菌も運ぶし排せつ物の始末も厄介なので、住みつかれたショッピングモールは有難迷惑、痛し痒し。

全体が黒い方はカラス。電柱のてっぺんでカーと鳴くハシブトガラスは都市派で、賢い行動で人類を悩ませる。

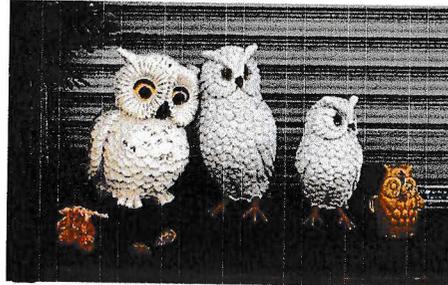
ヤタガラス(八咫鳥)というなぜか3本足の仲間が居て、神日本磐余彦(かみやまといわれびこ)という神様が日本国初代天皇に即位することに貢献。それではと、サッカー日本代表がシンボルマークに採用。世界制覇は近い、と思ったがまだまだ先になりそうだ。(No.1 参照)

八咫鳥は道案内するだけではない、人の姿にもなれる種族がいるのだという番組がテレビで始まった。

てしごとやふくろう

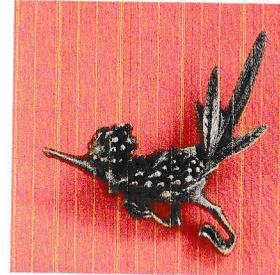
船橋市の浜町商店会の飲み屋の看板鳥。耳(耳羽)があるからミミズクではないのかというと、耳が有っても無くてもフクロウでありミミズクである。

色々な特技を持つ不思議な鳥で、ものしり博士、哲学者、忍者などと呼ばれることがある。夜の優れたハンターで、音もなく餌に飛びかかる。この特技は、日本の誇る新幹線の騒音低減の参考にされたとも聞く。



てしごとやふくろう(獣身類・招福目・儲かる科)
【コミミズク? 鳥綱・フクロウ目・フクロウ科】
2022/8/3. 船橋・浜町1「浜町商店会」
呑み屋「てしごとやふくろう」店頭

早や駆けトリ



タイ留めトリ
(装身具類・タイドメ目・トリタロウ科)
【オオミチバシリ 鳥綱・カッコウ目・カッコウ科】

ネクタイが苦手で、替わりに見つけたのがルーブタイ。これを締める小道具に凝った時のお気に入り。その頃テレビで見ていたアニメに出てくる、コヨーテを手玉に取るおそろしく早く走るトリだと勝手に決めて愛用していた。ロードランナーと記憶した。

架空のトリかと思っていたが、NHK「ダーウィンが来た!」(2019/9/29.)によると、アメリカ西部からメキシコの乾燥地帯に住む「ロードランナー(オオミチバシリ)」という、飛ぶより高速で走るのが得意な、トカゲなどを捕える鳥がモデルらしい。下の絵がそのテレビアニメのロードランナーとコヨーテ。



(何かの広告から無断借用)

写したゾーイ! 地上の巻

たまにハクセキレイを見る。尻尾をヒョコヒョコさせる鳥。

公園に、若鳥だろうか、近くまで寄っ



ハクセキレイ(鳥綱・スズメ目・セキレイ科)
2021/11/3. 船橋・浜町1「浜町公園」

てくるのが居た。近くと言っても3メートルほどで、豆粒ほどにしか写らない。でも写せたワイワイというのがこの一齣。記念に掲載。

写したゾーイ! 空中の巻

昔々北海道東部をドライブした時に、飛んでいる鳥を写していた。私にとっては希少価値がある。その中の1枚。

テレビで見慣れているはずだが、ナマの迫力、イキの良さを実感させられた。北海道デッカイドーの魔法にまんまとかかっていたせいかもしれない。

あらためて動物写真家のすごさに気づく。プロが観光客と同じでは古券に関わってしまう。(No.64 参照)



タンチョウ(鳥綱・ツル目・ツル科)
1933/3. 北海道・鶴居村